

正興宮

所在 西螺街西螺

教 別 儒教
 祭 神 大太子、二太子、三太子、保生大帝、大房媽、福德爺
 創 立 嘉慶二十年
 信 徒 六十人
 祭 神 舊曆九月九日
 管理人 西螺七五七 張 海
 財 產 祠廟敷地○甲一九〇〇

沿革||嘉慶二十年汎防(武官職名)詹愛なる者淡水より太子の木像を奉じ來りて當地に奉祀したるが靈顯著しかりを以て所在の住民相謀りて廟宇を建立せり其後道光年間廖輝煌外數名の發起にて改築せるも其狀況不明なり尙ほ今より六十年前二太子盜難に罹り他里霧崁脚庄の周某に賣られ同庄民之を信仰して靈顯あり西螺街民之を聞きて同像を奪還せりと

啓興宮

所在 西螺街西螺

教 別 儒教
 祭 神 池王爺、玄天上帝、楊王爺、福德爺
 創 立 同治元年
 信 徒 五十人
 例 祭 舊曆三月三日、六月十八日、九月十三日
 管理人 西螺九五 林 若
 財 產 祠廟敷地○甲〇〇八五

沿革||玄天上帝を祀れば靈顯著しとの説に基き附近の信仰者廖名央、董利勇等相謀りて同治元年西螺街の一部より醜金を爲し廟宇を建立せり其後同治九年及明治三十七年の兩度に重修及改築を爲せり

永興宮

所在 西螺街西螺

教 別 儒教

祭 神 福德正神、北港媽祖、新港聖母
 創 立 乾隆五十七年
 信 徒 約六百人
 例 祭 舊曆二月二日、八月十五日、十月十八日
 管理人 西螺二五七 林 科
 財 產 建物敷地○甲〇八〇〇

沿革||西螺地方は元荒蕪の地多きに拘はらず耕農者少なく住民徒らに商業の利にのみ走り生産の利を顧みざりしより乾隆五十七年土地の有志相謀りて農耕の神と仰かるゝ福德正神を彰化より分香し來りて奉祀したるに其後漸時耕地増加し作物收穫の利を擧ぐるに至れり其後咸豐十一年と大正元年に改築を加へたり其費用は總て附近信徒の喜捨に依れり

太一元寺

所在 西螺街西螺

教 別 佛教
 祭 神 觀音佛祖
 創 立 同治十二年
 信 徒 六百人
 例 祭 舊曆一月十六日、二月十九日、六月十九日、九月十九日、十月不定日
 管理人 西螺六六五 蕭 彩
 財 產 祠廟敷地○甲〇三九五

沿革||同治年間西螺街詹媽助の食客斗伯なる者芭蕉樹の下より佛祖の像を發見し之を箱に納めて媽助の宅に奉祀せるに其箱風なくして動き所在民之を信仰し靈顯々著なるものありければ信徒相謀りて廟宇を創立奉祀せりと

廣福宮

所在 西螺街西螺

教 別 儒教

祭 神 鎮殿媽、開基大媽、新大媽、二、三、四、五、六媽、廣福媽、會媽、千里眼、順風耳、神農大帝、哪吒太子、

開臺聖王、福德爺、虎爺（後殿配祀九體）
 嘉慶四年
 八百人
 例 祭 舊曆一月十四、五日、三月廿三日、四月八日、六月十九日、七月十五日、八月十日、九月十九日、十月十五日、十二月廿四日

管理人 西螺五〇八 廖和尙

沿革 同治辛未年支那湄洲より開基大媽を奉し來り奉祀せるが靈顯著しきものありたれば信仰者次第に増加し遂に廟宇を建立するに至れり然るに同年の震災に廟宇倒潰したれば信者相謀りて之を再興し同治甲戌秋廖振元總理となり重修せりと

福興宮

所在 西螺街西螺

教別 儒教
 祭神 鎮殿媽、大媽、二、三、四媽、順風耳、千里眼、開臺聖王、五谷王、太子爺、註生娘々、茹荼神、蓮女、虎爺、伽藍爺、福德爺、婆祖

創立 乾隆三十五年
 信徒 七百人
 例 祭 舊曆一月十日、四月廿六日、一、八、十月各十五日、二、九月各十九日、三、七月各廿三日、九月九日

管理人 西螺九四 高棕景

沿革 現在本廟に奉祀せる天上聖母は廣福宮に又た觀音佛は文祠廟の後方に祀りありしも現廟に遷宮の神意現はれたるより街民協議の上乾隆三十五年本廟を建立遷祀せり廟宇建立の重なる者は廖尙德、林倉光、鐘氏和等にして同治八年重修し明治四十一年再修せりと

三山國王廟

所在 西螺街西螺

教別 儒教

祭神 三山國王、觀音佛祖、天上聖母、善才、良女、章獻天、脇立、彌勒佛、福德爺、虎爺、達磨祖師、監齋爺、伽藍爺、十八羅漢、註生々娘、婆祖

創立 雍正年間
 信徒 八萬人
 例 祭 舊曆一月十五日、二月廿五日、七月廿五日、七月廿六日

管理人 西螺五五二 林振源

沿革 雍正年間臺中州何婆崙庄より奉じ來りたるに靈顯々著なりしかば附近の廣東族醱金して小祠を建て奉祀したるが乾隆年間詹阿斗、邱水量、陳阿祖、林集山外數百名醱金して本廟を再築せりと

南福壇

所在 西螺街西螺

教別 儒教
 祭神 地藏王公、大衆爺奶、觀音佛祖、福德爺、七仙姑

創立 嘉慶四年
 信徒 百人
 例 祭 舊曆二月十五日、三月十七日、五月五日、七月一日、七月三十日、八月十五日、十一月十二日、十二月二十日

管理人 西螺二二三 王葉

沿革 嘉慶年間廟前の埤圳に何處よりか一位牌の漂着せるものあり住民小屋を作りて奉祀したるに靈顯著しかりしかば光緒元年廖子岸、張阿漏、黃怖司等發起醱金して本廟を修築せりと

振文書院

所在 西螺街西螺

教別 儒教
 祭神 梓童帝君、關聖帝君、呂純陽帝君、朱衣帝君、倉聖人、先賢朱熹、魁星

創立 嘉慶十二年
 信徒 二百人
 例 祭 不詳

管理人 西螺一八二 廖懷臣

沿革 嘉慶十二年同地の廖乾孔、廖聯科、廖壯興、劉開張、必應、廖拔等發起して地方文化の發達に資すべく本宇を建立したるが爾來明治元年、明治十五年、同二十五年等漸次修築を加へたるも明治三十九年の地震に倒壊したれば有志醴金して再興せりと

慶天堂

所在 西螺街西螺

教別 齊敬(龍華派)
祭神 三寶佛、觀音佛祖、十八羅漢、阿彌陀佛、蘇王爺、湄州媽、天上聖母、祖師公

創立 光緒十年
信徒 二百五十人

例祭 舊曆一月九日、四月八日、十一月十七日
管理人 西螺五八 黃屋

沿革 初め當地の張响、張明月各自に佛祖を奉祀し居たるが光緒十年齋友と相謀り醴金して一字を創建せり明治三十五年の暴風雨に破損したれば齋友黃屋、廖正己相謀りて之を修築せり

伽藍爺廟

所在 西螺街西螺

教別 儒教
祭神 伽藍爺、同奶、彰化媽、觀音佛祖、臨立

創立 不詳
信徒 百二十人

例祭 舊曆一、八、十月各十五日、十二月十三日
管理人 西螺一〇一七 王老能

財產 祠廟敷地〇甲五八五〇

沿革 創立の緣起明かならざるも約四十年前當地の伽藍爺信者彰化の天上聖母を迎へる爲め彰化に赴きたるに其中の首

事翁開運なる者彰化縣の班頭に捕へられたり然るに事祭典の混雜中に起りたる故誰れ一人知るものなく歸路に就きたるが伽藍爺の靈現はれ彰化の班頭の家に至り翁開運を釋放せしめたり之より住民の信仰一層加はり明治三十年廖算、廖心番、廖德五發記して寄附を集め本廟を再興せり後大正四年再修せりと

北壇

所在 西螺街西螺

教別 佛教
祭神 地藏王菩薩

創立 嘉慶元年
信徒 五十餘人

例祭 舊曆七月二十日、同廿九日
管理人 西螺二九四 江成

沿革 最初當地は一帯の墓地なりしを嘉慶の始め鹽田築造の爲め之を發掘して一箇所に集め鹽館師爺毎年之を奉祀し居たるが偶ま一年其祭祀を缺きたるに直ちに其崇りを被りたれば時の有志李明智發起にて其地に萬人塚を築き北壇と命名せり其後明治四十二年大破に付修繕を加へたりと

土地公廟

所在 西螺街三塊厝

教別 儒教
祭神 土地公

創立 四五十年前
信徒 二百五十人

例祭 舊曆二月二日、八月十五日
管理人 三塊二三三 曾呢

財產 雜種地 〇甲一二六〇、原野〇甲三九二五、年收倉二十五圓

沿革 本尊は當地の李智曹なる者支那より持ち來り自宅に奉祀せるに盜難に罹り暫らく其所在不明なりしが稍々ありて

其盗人は神靈の出現に驚き自首して本尊を返したれば附近の者之を聞き傳へ遂に廟宇を建立して奉祀する事に一決し約四五十年本廟を建設せりと

土地公廟

所在 西螺街三塊厝

教別 儒教
 祭神 土地公、土地婆
 創立 嘉慶年間
 信徒 百三十名
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 西螺三塊厝一〇六 林國美
 沿革 創立の縁起詳かならず

觀音媽廟

所在 西螺街三塊厝

教別 儒教
 祭神 觀音媽
 創立 約七十年前
 信徒 七百五十人
 例祭 舊曆二月十九日
 管理人 三塊厝二五九 余進子
 沿革 今より約七十年前當地の余包なる者埃頭厝より此地に移住の際携へ來り自宅に安置したるが一般の信仰する處となれり併し未だ廟宇を建立せずと

協天宮

所在 西螺街三塊厝

教別 儒教
 祭神 關帝爺、元帥爺、媽祖
 創立 明治十三年
 信徒 百三十人
 例祭 舊曆五月十五日、十月八日
 管理人 三塊厝八三 廖大
 財產 祠廟敷地 〇甲一〇一〇

沿革 明治十三年當地の廖得安なる者彰化城武廟より分香し來り奉祀せるに庄内の災厄頓に減じたれば一般の信仰する處となり一字を建て之を奉祀せり其後大

正元年、大正四年の二回修築を加へたるが其斡旋者は共に現管理人廖大なりしと

福天宮

所在 西螺街社口

教別 儒教
 祭神 天上聖母、五谷大帝、開臺聖王、太子元帥、福德正神
 創立 康熙五十五年
 信徒 六百人
 例祭 舊曆一月十四日、二月二日、三月廿三日、八月十五日、十月十五日
 管理人 社口廖木、廖頂、王石頭、王知母、蔡清水、陳火臨、王烟只、廖家才、吳萬才、李枝、黃阿獅
 財產 建物敷地 〇甲〇四一五、畑三甲二〇二五、年收益三十圓

沿革 創立の縁起明かならず只だ今より約百年前當地の廖姓と李姓との鬭争あり住民何れに付くべきかに迷ひ神意を糺したるに中立すべしとの神示あり果して其如くなりしを以て本尊の靈顯著しとて其後信仰極めて厚くなれり本廟の修築は明治十四年、大正元年の二回にして王阿乳専ら之に斡旋せりと

土地公廟

所在 西螺街社口

教別 儒教
 祭神 土地公
 創立 嘉慶二十三年
 信徒 五十人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 社口四九四 廖新彩
 財產 原野一甲〇四七〇

沿革 創立の際は専ら廖企なるもの之を斡旋し大正三年再修には住民一同出役して竣工せりと

養德堂

所在 西螺街埔心

沿革 本尊の關帝君は當庄の王老孃なるもの新竹より移住の際奉祀し來り家神として自宅に奉祀せるに同人の住宅が大正元年の暴風雨に倒壊して再築の資なかりしより住民協議の上同年本廟を創建奉祀したるものなりと

永興宮

所在 虎尾庄廉使

教別 儒教
祭神 玄天上帝、土地公、媽祖佛祖、觀音、馬舍公
創立 百八十九年
信徒 四百人
例祭 舊曆三月三日
管理人 廉使 林乞食
財產 ○甲〇九四五

沿革 今より百八十九年當庄民協議の上創立せる者にして三十年前陳連なるもの發起にて修覆を加へたりと

有應公廟

所在 虎尾庄大屯子

教別 教儒
祭神 有應公(無縁者の靈)
創立 四十年前
信徒 二千人
例祭 舊曆七月十八日
管理人 大墩仔 陳默

沿革 當地の無縁者の位牌を集め祈願したるに靈顯あり陳順なる者發起して草廟を建て之を祀る明治二十六年廟宇火災に罹りたれば陳漏清なる者發起して再興せり

王爺廟

所在 虎尾庄北溪厝

教別 儒教
祭神 池王爺の太子
創立 不詳
信徒 三十八人

例祭 舊曆五月十七日
管理人 北溪厝 陳媽福
沿革 戴萬星の亂に祭神の宣託あり其後果して賊襲來したれば損害僅少にて濟み其の信仰漸く高まり毎十年毎に有志相謀りて修築を爲し居れり

祖師公廟

所在 虎尾庄浦子

教別 儒教
祭神 清水祖師、太子爺、舊教元帥、中壇太子、池府千歲
創立 不詳
信徒 千三百人
例祭 舊曆正月不定日、六月十八日
管理人 浦子八三 周財

沿革 本廟は部落の開設と其起源を同ふるも十數年毎に改築又は修繕を加へざるべからざる不便あり前回は明治四十四年董樅の斡旋にて改築せり

祖師公廟

所在 虎尾庄浦子

教別 儒教
祭神 清水祖師、金元帥、田都元帥、池王爺
創立 不詳
信徒 七十四人
例祭 舊曆八月十六日
管理人 浦子八三 陳罩

沿革 廟は部落の開拓當初創立されたる者にして明治四十一年周萬樹の斡旋にて改築せり

土地公廟

所在 虎尾庄浦子

教別 儒教
祭神 土地公
創立 光緒八年
信徒 二百人
例祭 舊曆八月十五日

管理人員 扶員
沿革||部落の主護神として部落開拓の當初建立したるものにして明治三十四年改修せりと

興 國 宮

所在 二崙庄二崙子

教 別 儒教
祭 神 關帝君、三太子
創 立 乾隆十三年
信 徒 二百四十人
例 祭 舊曆五月十三日
管理人員 二崙三三九 廖 棋 華
財 產 畑〇甲〇八九五

沿革||祭神は約二百年前部落民の祖先が支那より遷祀したるものにして靈顯々著なりければ住民協議して廟宇を建立せり其後道光五年大破したれば大修繕を加へたりと

祝 天 宮

所在 二崙庄惠來厝

教 別 儒教
祭 神 媽祖、關帝爺、五谷王、國聖爺、順風耳、千里眼
創 立 百年前
信 徒 五十人
例 祭 舊曆三月廿三日
管理人員 惠來厝五三二 廖 河
財 產 祠廟敷地〇甲二六二五

沿革||約百年前北港より分香し來り民屋に奉祀し約六十年前に至り喜捨金七千圓を得て本廟を創立したるが年所を経るに従ひ頽廢して毒蛇の巢窟となりたれば之を取毀ちて神像は民屋に移祀し大正六年二月僅かに茅葺の小宇を建築して之れを奉祀し目下再興計畫中なり

三 媽 廟

所在 二崙庄大義崙

教 別 儒教

祭 神 天上聖母、千里眼、順風耳、國姓爺、法主公、太子爺、福德爺
創 立 乾隆十四年
信 徒 千三百人
例 祭 舊曆三月廿三日、十月十四日、同十五日、十月不定日
管理人員 大義崙八二 李 朱 蟻
財 產 建物敷地〇甲一五四五
沿革||乾隆十三年當地方に惡疫流行し庄民三日間に亘り齋戒して西螺の福興宮に祈願す然るに靈顯々著にして惡疫後を絶ちたれば其年の冬聖母を迎え祭り且つ神託により其翌年本廟を建立せり其後明治三十七年庄民千餘圓を醴集して大修繕を加へ今に至ると

福 儀 宮

所在 二崙庄新庄子

教 別 儒教
祭 神 太平媽、關帝君、土地公、太子爺
創 立 不詳
信 徒 百三十名
例 祭 舊曆一月十五日、五月十二日、十一月十二又は十三日
管理人員 新庄子八九 廖 火

沿革||當庄の北方を流るゝ溪流に或る時太平媽漂着せり庄民之を拾ひ上げ西螺の福興宮に納めて信仰し居たるが其後庄民醵金して本廟を建立し別に神像を刻んで奉安せり其後三回に亘り修繕を加へたるが第三回目は明治三十八年にして廖木和専ら之れに斡旋せりと

媽 祖 廟

所在 二崙庄新庄子

教 別 儒教
祭 神 媽祖、千里眼、順風耳、觀音、土地公
創 立 不詳
信 徒 五十人
例 祭 舊曆一、八、十一月各十五日、三月

廿二日
新庄子七八 葉馬
管理人

沿革 本祭神は往時同庄の楊有なる者
自宅に奉祀し居たるが靈顯著しく庄民協
議の上廟宇を建立して遷祀せり其後廖清
新の斡旋にて重修を加へ今日至る

有應公廟

所在 二崙庄新庄子

教別 儒教
祭神 有應公(無縁者の靈)
創立 不詳
信徒 不詳
例祭 不定
管理人 なし

沿革 不詳

福德爺廟

所在 二崙庄新庄子

教別 儒教
祭神 土地公、土地婆、文武官
創立 同明四年
信徒 五十五人
例祭 舊曆一月六日、八月十五日
管理人 新庄子四二一 歐石上
同同 四〇八 蘇玉
同同 四二五 蔡松
同同 四一八 林強
同同 四一五 張昌通
祠廟敷地 〇甲七五〇、養魚池三
甲一〇〇〇

沿革 同治四年創立せりとの傳説ある
のみにて其他の縁起不詳

定安宮

所在 二崙庄永定厝

教別 儒教
祭神 三山國王、土地公、西秦土爺、觀音、
媽祖
創立 不詳
信徒 五百六十三人

例祭 舊曆一月十一日、二月廿五日、八月
十日、十日

管理人 永定厝四〇一 廖 胚
建財 建物敷地 〇甲七九〇、畑 〇甲八〇〇
〇、池 〇甲九四四五

沿革 往時同庄の葉某支那より主神の
神像を携へ來り自宅に奉祀したるが庄民
其靈顯あるを知り協議の上廟宇を建立遷
祀せり其後明治三十九年風雨の爲め大破
したれば陳鳥、廖天營等主唱して改修を
加へたりと

鐘氏祖祠廟

所在 二崙庄永定厝

教別 儒教
祭神 精化鐘大府君、鐘大公祖媽、連潤
鐘三公、同氏孀人
創立 不詳
信徒 二十六人
例祭 舊曆三月、七月各十五日、清明、冬
至、

管理人 缺員
財產 建物敷地其他六甲四八〇二

沿革 本祠は鐘家の祖廟にして往時當
地の鐘信義なる者神像を支那より奉祀し
來り最初頂茄塘に祀りしが後當地に移住
廟を建て、之を祀れり

土地公廟

所在 二崙庄永定厝

教別 儒教
祭神 土地公、土地媽
創立 道光二十五年
信徒 四十七人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 永定厝二五 李 琴
財產 畑一甲三〇八〇

沿革 土地開拓の主護神として道光二
十五年廟宇を建立して奉祀せり關係者不
詳

土地公廟

所在 二崙庄永定厝

教別 儒教
 祭神 土地公
 創立 不詳
 信徒 十三人
 例祭 舊曆一定せず
 管理人 港後二四〇 李樹頭

沿革 建廟の年代關係者等一切不詳

媽祖廟

所在 二崙庄港後

教別 儒教
 祭神 媽祖、一、二、三媽、千里眼、順風耳
 創立 同治八年頃
 信徒 百人
 例祭 舊曆一月十一、二、三日、三月廿三日、八月一日、十月一回(不定日)
 管理人 港後一二九 李境
 財產 祠廟敷地〇甲八〇〇〇

沿革 北港の媽祖廟より分香し來り同治七八年頃神像を刻み廟を建て之を奉祀せり其後光緒三年、光緒十五年、大正二年の三回に亘りて修繕を加へ今日に至ると

興福宮

所在 二崙庄三塊厝

教別 儒教
 祭神 福德正神
 創立 約百五十年前
 信徒 八百三十人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 三塊厝八三 廖大
 財產 祠廟敷地〇甲三〇六四

沿革 約百五十年前の創建なりとの傳説あるのみにて其他一切不明なり

協天宮

所在 二崙庄三塊厝

教別 儒教

祭神 媽祖、關帝君、元帥爺

創立 文政元年
 信徒 八百三十人
 例祭 舊曆三月廿三日、五月十三日、十月不定日

管理人 三塊厝八三 廖大
 財產 祠廟敷地〇甲一〇〇五

沿革 縁起不明なり廟は最初竹柱茅葺なりしも大正四年七塊造り瓦葺に改修せり關係者不詳

順天宮

所在 崙背庄崙背

教別 儒教
 祭神 天上聖母、朱府王爺、關帝爺、太子爺、觀音媽、李王爺、池王爺
 創立 明治二十七年
 信徒 百人
 例祭 舊曆三月、九月、十月各不定日
 管理人 崙背 李春穴
 財產 畑一甲〇四九六、祠廟敷地〇甲〇七五

沿革 今を去る約百年前當地方に凶作打ち續き人民疲弊固憊の極北港媽祖に祈願せるに其後漸次豊年を迎え人民鼓腹の喜びを得たれば李娘竅、李王璋等奔走して神像を刻み廟宇を建て之を奉祀せり時に明治二十八年二月なり其後大正二年の風水害にて半壞となり未だ修繕の運に至らずと

奉天宮

所在 崙背庄崙背

教別 儒教
 祭神 天上聖母、太子爺、國姓爺、千里眼、順風耳
 創立 文久二年
 信徒 四百人
 例祭 舊曆二月十五日、七月十五日、九月不定日、十月廿五日、廿六日、廿七日
 管理人 崙背二四八 李耳
 財產 建物敷地〇甲〇九五〇、畑二甲九〇

七三

沿革 今より五六十年前北港媽祖を迎
え庄民の平安を祈り居たるに乱童の神託
に依り太子爺と共に廟内に祀る事となり
庄民相謀りて本廟を建立せりと

有應公廟

所在 崙背崙背

教 別 儒教
祭 神 有應公(無縁者の靈)
創 立 道光年間
信 徒 千人
例 祭 舊曆八月十五、六、七日(三日)
管理 人 なし

沿革 往時同庄に豚の種付けを業とす
る李困常なる者あり家内絶滅して之を祀
るものなく豚の賣買人に不測の事のみ多
かりければ之れ李困常の位牌を放置する
爲めなるべしとて之を祀りたりに其後豚
に就いて故障なきに至りしかば之を主神
とし其他の無縁者を集めて奉祀せりと

泰安宮

所在 崙背庄猫兒干

教 別 儒教
祭 神 溫王爺、國姓爺、土地公、刑王爺、
三王爺、李王爺、婦人媽
創 立 明治三十六年
信 徒 二百人
例 祭 舊曆五月五日、十月九、十日
管理 人 猫兒干三二三 蔡 溪

沿革 庄民林某支那より移住の際奉祀
し來れるものにて最初は家神として自宅
に奉祀せるが靈顯著しきものあり遂に林
國、蔡收等發起庄民と協議し明治二十六
年本宮を造營奉祀せりと

玉安宮

所在 崙背庄興化厝

教 別 儒教

祭 神 法主公、蘇王爺、土地公、加毘羅王、
七王爺
創 立 明治四十年
信 徒 百五十人
例 祭 舊曆一月五日、二月二日、四月十日、
七月八日、七月廿三日、八月十五日、
十月十五日
管理 人 興化厝一七六 周啓思

沿革 同庄を流るゝ虎尾溪は年々氾濫
して被害少なからず庄民之に苦しみ協議
して法主公を迎え之を除かん事を祈願す
果し水害減じたれば明治四十年本廟を建
立して奉祀せりと

開山聖侯廟

所在 崙背庄崩溝寮

教 別 儒教
祭 神 開山侯、伏魔公
創 立 光緒十一年
信 徒 千二百人
例 祭 舊曆一月五日、五月五日
管理 人 埔心庄二八七 鐘 德旺
財 產 祠廟數地○甲一六九〇、建物數地三
甲一七〇、畑一三甲六五三五

沿革 或る時某舉人此地に宿泊して盜
人と疑はれ危難に罹らんとしたるに開山
侯に祈願して其難を免かれ盜人は他に自
首し出でたり其後草廟を營み此に奉祀し
たるに又々盜難あり同廟に祈願して靈顯
あり庄民協議し鐘開元、鐘來壽等主とな
り廟の改築に當り明治十八年工を竣れり
其後明治二十六年再び修繕を加へたりと

拱範宮

所在 崙背庄麥寮

教 別 儒、佛教
祭 神 媽祖、觀音佛祖、文昌公、關羽、朱
衣公、千里眼、順風耳
創 立 乾隆五十年
信 徒 一萬人
例 祭 舊曆二、六、九月各十九日、三月廿
三日

管理人 麥寮六五 林連來
財 產 宅地○甲三七七〇、養魚池○甲四一三〇

沿革 乾隆五十三年當地に海瀟あり全庄の住家皆な流失したるも媽祖廟のみは其難を免れたり依つて庄民之を奇とし虎尾溪の南岸に一字を建て此處に遷祀す其後嘉慶十七年、明治三十九年の二回に大修繕を加へ現今に至ると

福安宮

所在 崙背庄麥寮

教 別 儒教
祭 神 蕭王爺、利王爺、李王爺
創 立 九十年前
信 徒 百六十人
例 祭 舊曆四月廿六日、五月十七日、八月廿三日、十一月十八日
管理人 麥寮二九二 楊加邦

沿革 本祭神は最初麥寮の西端なる一廟宇にありしが其後廟屋倒壊し許主なる者の自宅に奉祀したるに庄民の信仰漸く加なり遂に信者協議の上現在の箇所に廟宇を建立して遷祀せり

聚寶宮

所在 崙背庄麥寮

教 別 儒教
祭 神 蕭王爺、謝必安、范無救參謀營道兵士等、大使爺、馬王爺
創 立 明治四十年
信 徒 一萬人
例 祭 舊曆五月十七日
管理人 麥寮一七 吳九河
財 產 祠廟數地○甲二四五〇、畑四甲二七五〇

沿革 元と光代寮庄に一廟あり大使公と二使公を祀りたるが或日支那泉州南門外富美庄より蕭王來るべしとの神託あり庄民之を迎え祭り前記の廟宇に合祀せり然るに其後靈顯屢々顯はれ住民の信仰増

々高まり明治四十年十月吳水占、吳標安等發記して醴金三千餘圓を集め現廟を建立し之に遷祀せりと

鎮北宮

所在 崙背庄麥寮

教 別 儒教
祭 神 李王爺、溫王爺、利王爺、武王爺
創 立 光緒十三年
信 徒 二千人
例 祭 舊曆四月廿六日、八月廿三日、九月一日、十一月廿一日
管理人 麥寮三〇九 吳記
財 產 祠廟數地○甲〇二〇〇

沿革 本廟は明治二十二年の創立にして林王炮、蔡純等専ら其事に當りて斡旋せり神像は家神として民家に在りしに靈顯ありたれば之れを遷祀せるものなりと

福興宮

所在 崙背庄沙崙後

教 別 儒教
祭 神 李王爺、法主公、土地公、朱王爺、千里眼
創 立 光緒二十年
信 徒 百五十人
例 祭 舊曆四月廿六日、七月廿三日、十月十五日
管理人 沙崙後二八七 陳賜
財 產 祠廟數地○甲一一八五

沿革 本廟の祭神李王爺は最初庄民の祖先が支那より奉持し來り山寮の蘇王廟に合祀したるが不幸同廟倒壊せり然るに或夜李王爺現はれ一廟を建て奉祀すべしとの神託ありければ庄民相謀りて本廟を造營せり當時陳權は専ら其掌に當りて奔走せりと

開元宮

所在 崙背庄沙崙後

教 別 儒教
祭 神 朱王爺、張王爺

創立 咸豐七年
 信徒 四百五十人
 例祭 舊曆六月八日、九月十五日
 管理人 沙崙後一六六 許 好
 財產 祠廟敷地○甲○四二〇

沿革 始めは當庄許某の家神なりしが靈顯ありて庄民の信仰を得許擁なる者の盡力に依り咸豐七年本廟を造營して遷祀し後明治三十三年庄民の寄進に依り修覆を加へたりと

爐王爺館

所在 崙背庄橋頭
 教別 儒教
 祭神 爐王爺、薛王爺、張王爺、媽祖、趙王爺、婦人媽
 創立 光緒九年
 信徒 百人
 例祭 舊曆五月五日、十月九日
 管理人 橋頭一九一 許 意

沿革 光緒九年海豐庄馬鳴山の王爺廟より分香し來り廟を建て像を彫み奉祀せり明治三十八年自然大破したれば修繕を加へたりと

懷寶宮

所在 崙背庄施厝寮
 教別 儒教
 祭神 盧王爺、池王爺、上帝爺、侯王爺、太子爺、土地公
 創立 五十年前
 信徒 三百人
 例祭 舊曆十月九、十兩日
 管理人 施厝寮一五一 林 吟

沿革 約五十年前馬鳴山より分香し來り家神として奉祀せるに靈顯ありて庄民の信仰を得遂に建廟の上遷祀せり其後太正四年自然破損したれば再修を加へたりと

五條港宮

所在 海口庄五條港

教別 儒教
 祭神 張府千歲王爺、李、莫、蘇、刑、林、池諸王爺、上帝爺、福德爺
 創立 文化四年
 信徒 五萬人
 例祭 舊曆六月九日、年末不定日、小祭毎月、朔望二回
 管理人 海口 林 心 飽
 財產 祠廟敷地○甲一四六〇

沿革 乾隆の末年一隻の竹筏五條港沖に漂着せり同港民之を發見して其中を改むるに香爐及布製香火に張王爺と記載せるものあり粗末にすべからずと有志の宅に奉祀せるに靈顯著しきものあり翌年麥寮の富豪楊長利之を聞きて附近庄民と協議し五千圓を醸出して本廟を建立せり其後兩三回改修小修繕を爲したる事あり其經費は崙子頂、五條港、普會厝、山寮、十張犁、海口厝、新興の各庄民有志の喜捨に依れりと

賜安宮

所在 海口庄東勢厝
 教別 儒教
 祭神 三山國王、土地公
 創立 約二百年前
 信徒 千九百人
 例祭 舊曆二月廿五日、十月不定日
 管理人 路利潭 黃 淺

沿革 當庄は往時(年代不詳)漳州人移住して部落を作り本廟を建立したる者なるが今より約三十年前泉州人來りて漳州人を追ひ此地に居を定め廟宇のみは靈顯あるに鑑み之を尊崇したるも別に改築も加へざる爲め自から頽廢し居たれば明治十七年當地黃姓の者約三百戸にて金四百五十圓(甘蔗作の收穫約一割)を醸出して本廟を再興せり盡力者は黃九なる者なりしと

鳳山廟

所在 土庫庄土庫

教別 儒教
祭神 廣澤尊王、二王、三王、土地公、王爺、順正大王

創立 道光三十年
信徒 五千百餘人
例祭 舊曆二月廿二日、八月廿二日
管理人 土庫二四七 郭 榜
財產 祠廟敷地○甲○五七五

沿革 本廟は道光三十年頃郭僕、郭赤、郭送、郭馬、郭仲厘等發起し所在の郭姓の者と相謀り寄附金三千圓を郭姓の者より募りて建立したるものにて當時は祖廟として郭姓のみにて祭典を行ひ來りたるが六十年前戴萬星の亂に著しき靈顯ありしかば其後庄民一般に祭典に加はる事となれり而して光緒十六年に至り郭梓材、郭學討、郭進、郭眺等相謀りて金四千圓を郭姓の者より募集し大修繕及増築を爲せりと

順天宮

所在 土庫庄土庫

教別 儒教
祭神 天上聖母、合童、玉女、千里眼、順風耳、觀音、境主、五谷王、太子爺、註生娘々、五文昌、虎爺

創立 道光十四年
信徒 五千百人
例祭 舊曆三月廿三日、十月十五日
管理人 土庫九三 陳 照
財產 祠廟敷地○甲一四二○

沿革 本廟にては道光以前は北港の媽祖神像を迎へて祭典を執行し來りたるが道光の初年祭典の總理許蔭昌が神像奉送の途中故隙の爲め豫定を遅らせしに依り北港の人民激怒して許蔭昌を捕へ各郷を引廻して侮辱を加へたるより許は歸來直ちに治德號、林治源、德義號、許光池、

陳世澎等と謀り寄附金七千二百四十圓を集め道光十四年本廟を創立せり尤も最初は前殿のみなりし故咸豐二年金懷德、郭經者、謝經邦、林得祿、林日昌、許世而、洪天同、吳以己等相謀りて金三千圓を募集し本殿の修繕及後殿の増築を爲せり次いて光緒二年陳適均又た有志と計り寄附金一千圓を投じて右廂を増築せりと

有應公廟

所在 土庫庄土庫

教別 儒教
祭神 有應公(無緣者の靈)
創立 不詳
信徒 百三十人
例祭 不定日
管理人 なし

沿革 本廟創立不詳、始め吐光山下に在りしも明治二十八年兵燹に罹り焼失せしかば明治四十一年土庫庄民の有志金三十圓を醸出して現在の位置に移轉改築せりと

土地公廟

所在 土庫庄土庫

教別 儒教
祭神 土地公、土地婆
創立 不詳
信徒 千五百人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 なし

沿革 本廟の創立は詳かならざるも明治三十三年土庫支廳建築の際破潰されたれば大正三年林嚙、林胚、謝福、陳照等の發起にて土庫庄民より寄附金四百五圓を募集し現在の位置に移轉改築せりと

土地公廟

所在 土庫庄過溝

教別 儒教

祭神 土地公、土地婆

創立 明治三十九年

信徒 三百人

例祭 舊曆八月十五日

管理人 過港 林錦治

沿革 本廟は明治三十九年當地の村端に舊式糖廊の設立を見たるが遠く過溝庄方面より望めば恰かも嶋を負ふ虎に酷似す時偶ま過溝庄に病疫流行し住民皆な夫の虎の爲めなり夫の虎を制壓せざる可からず虎を制壓するには土地公を祀り其の神力を籍らざる可からずと遂に庄民協議を遂げ勞力及金七十餘圓を醸出して本廟創立せり其後多少の修繕を行ひたる事あるも寄附金は小額にして材料及勞力を庄民の寄附に依れりと

祖師公廟

所在 土庫庄過溝

教別 儒教

祭神 清水祖師、太子爺、蕭仁爺、池王爺、土地公、媽祖、註生娘々、上帝公、馬卒

創立 不詳

信徒 三百人

例祭 舊曆四月八日

管理人 過港四三五 陳慶成

沿革 本廟の創立縁起等不明なるも由來本廟は陳姓のみにて信仰し來りたるものにして大正二年廟宇荒廢改築を行ひたる時も陳朝龍、陳稟、陳客等發起し寄附金の募集改築の董事を爲せり工費は三十圓内外にして本廟は十四五年間に一回宛位は斯かる方法にて改築を爲すを例とす

關帝爺

所在 土庫庄埤脚

教別 儒教

祭神 山西夫子、池王爺、福德正神

創立 明治三十三年頃

信徒 六十人

例祭 舊曆五月十三日

管理人 埤脚 謝佳尿

沿革 本廟は明治三十三年頃牛稠子の陳恭なる者が發起して寄附金十數圓を募り創立せるものにして主神山西夫子は往時同地の住民が清國に赴き戰場に臨みしに無事なりしは同人が山西夫子の文字を肌付けて寸時も放たざりし爲めなりとて歸來信仰者漸く多くなり遂に本廟創立の氣運を醸成せるものなりと

有應公廟

所在 土庫庄大荖

教別 儒教

祭神 有應公(無縁者の靈)

創立 不詳

信徒 八十人

例祭 舊曆七月廿六日

管理人 なし

沿革 本廟の創立縁起詳かならず其後明治四十四年有志相謀り大荖より寄附金三十餘圓を募り從來の竹柱茅葺廟を磚瓦造に改築せりと

有應公廟

所在 土庫庄大荖

教別 儒教

祭神 有應公(無縁者の靈)

創立 咸豐二年

信徒 三千五百人

例祭 舊曆七月廿九日

爐主 大荖一〇 陳連辻

沿革 今より七八十年前虎尾溪以北に土匪の襲來頻々たりし頃當庄には神火點滅し或は不時多數の人聲を聞くなど不可思議の事ありて土匪の襲來を免かれたれば之れ神力の然らしむる處ならんと庄民相謀つて本廟を創立せり然るに其廟宇次第に頽廢せるより三十五六年前王水、王

金乞、王興等發起して之を改築せりと

土地公廟

所在 土庫庄大茭

教別 儒教
祭神 土地公
創立 不詳
信徒 百三十一人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 なし

沿革 本廟は當地の開闢と共に土地の守護神として創立されたものなるも元より竹柱茅葺の小宇なりければ約三十年時火災に罹りて焼燼せり依て王興志、王水、王金乞、王興等發起となり所在有志の醸金を求め煉瓦造の廟に改築せりと

萃英社

所在 土庫庄埔巷崙

教別 儒教
祭神 五文昌帝君、關平、周倉、土地公、關羽、王爺
創立 九十三四年前
信徒 二百人
例祭 舊曆三月三日
管理人 埔巷崙
財産 畑一甲一八九五
柯 謨

沿革 本社は道光末年張明星なるものが當地の文化甚だ低く而かも文運日に衰ゆるを遺憾とし私財八百圓を投じて廟舎を建立せるが其後星霜を経るまゝに廟舎自から頽廢せるより光緒七年張鎮玉なる者所在の讀書人と謀り金五百圓を醸出して廟舎の大修築を爲すと共に山川門を増築せしものなりと

土地公廟

所在 土庫庄埔巷崙

教別 儒教
祭神 土地公、文武判
創立 約百年前

信徒 二百五十人
例祭 舊曆八月十五日
爐主 埔巷崙 鄭生

沿革 本廟は今より約百年前埔巷崙の張克厚なる者が發起して庄民と謀り祭神を刻み廟宇を創立せる者にして其後春秋幾星霜、廟宇漸く破損したれば明治四十二年楊尙碧發起となり庄内より寄附を募り之を改築したりと

鎮安宮

所在 土庫庄馬鳴山

教別 儒教
祭神 五年王爺、劍印童子、土地公、土地婆、境主、太子爺、虎爺
創立 光緒庚寅年
信徒 一萬人
例祭 舊曆十月廿一日より廿三日迄三日間 (五年に一回)
管理人 馬鳴山 陳益
財産 田三甲三三五五

沿革 本廟の祭神五年爺は今より百年前庄民某が支那より奉持し來りたるもの光緒戊子年馬鳴山の董事陳國なる者發起して土庫、朴子脚兩支廳管内より金六千圓を募集し神像を刻み廟宇を建立して之を奉祀せり配祀從祀の神像も此の時彫刻せるものにして其竣工は翌々光緒庚寅年なりしと

媽祖廟

所在 土庫庄馬公厝

教別 儒教
祭神 媽祖
創立 約百年前
信徒 二十人
例祭 舊曆三月十九、二十、廿一日の三日間
管理人 馬公厝 張友
同 張萬順
財産 畑二甲一二八〇

沿革 本廟の祭神は今より約百年前虎

余とし畑〇甲三九三〇を購入し其収益を以て祭事費維持費に充當し來れり

媽祖會

大埠庄大埠一九五

祭神 媽祖

會員 十一人

創立 同治五年

例祭 舊曆三月廿三日

爐主 大埠庄大埠一九五 劉作

沿革及經理 本會創立の年他庄に惡疫流行せるを以て除疫享福を祈願する爲め同庄の呂美、劉連和等發起して新巷媽祖を分香し來り自家に奉祀して本會を創立せり會の維持費祭事費は現金五十圓を貸付け年十圓の利息を收め居るを以て其中より支辨しつゝあるも此の基本金を如何にして造成せしやは明かならず

虎尾郡宗教團體

西螺庄

振文神明會

西螺街西螺六五八

祭神 關帝君

會員 三十八人(同街名望家)

創立 明治四十二年

例祭 舊曆二月三日、四月十四日、九月十五日

管理人 西螺街西螺六五八 廖懷臣

沿革及經理 同地の名望家廖懷臣が發起して會員の親睦を圖り且つ學問の向上を圖るべく本會を創立したる者にて創立當初會員の贖金其他にて二百四十圓の基金を得毎年四十八圓の利息を收め之を以て會の維持及祭典費宴會費等に充てゝ居ると

如心社

西螺街西螺六九四

祭神 玉皇上帝

會員 二十人(同地商人)

創立 光緒十年

例祭 舊曆一月八、九兩日

管理人 西螺街西螺六九四 劉君遜

沿革及經理 西螺街及附近の商人が商賈の繁榮と家内の安全を祈る爲め各自五圓宛を出し之を基本金として創立し其後數年間之を貸付け利殖を圖り祭事費維持費に充當せしが明治二十年頃現金を所有するは危險且

つ不利益なりとの見解にて各自更に二圓宛を出金し基本金と併せて田一甲〇三一〇を買入れ其収益約九十圓を會の諸費に充てゝ居ると

沈大使公神明會

西螺街茄菜二三七

祭神 沈大使公

會員 三十三人(同地歐、陳兩姓の農民)

創立 約百八十年前

例祭 舊曆七月廿五日

管理人 西螺街茄菜二三七 歐力

沿革及經理 今より百八、九十年前沈、歐、陳三姓の祖先始めて支那より同地に移住したるに歐、陳の兩姓は子孫繁榮したるも沈のみは不幸病歿したれば殘る兩姓にて沈を祀る爲め本會を創立し其贖金にて田一甲三〇二五を買入れ其収益年約二十五圓を會の祭事費維持費に充て今日に至ると

福德爺會

西螺街三塊厝一〇六

祭神 土地公、同夫人

會員 百人(三塊厝の農民)

創立 約百十餘年前

例祭 舊曆八月十五日

管理人 西螺街三塊厝一〇六 林國美

沿革及經理 本會は約百十餘年前同地の有志協議の上農作の豐稔と家内の安穩を祈らん爲め創立したるものにして所屬財産として原野〇甲二九四〇を有するも収益なきを以て其維持は全部會員の寄附に依れりと

聖母會

西螺街三塊厝二五八

祭神 天上聖母

會員 四人

創立 約百十餘年前

例祭 舊曆三月廿三日

管理人 西螺街三塊厝二五八 林國家

沿革及經理 會員各自の無事息災と豐作を祈らん爲め創立し會員協議の上平等出金して基本財産とし畑〇甲七二〇年収益十七圓を買入れ其収益を祭事費維持費に充て今日に至ると

聖母會

西螺街三塊厝四三七

祭神 天上聖母

會員 二人

創立 八、九十年前

例祭 舊曆三月廿三日
管理人 西螺街三塊厝四三七 林東

沿革及經理 今より八、九十年前林東、林木定

沿革及經理 今より八、九十年前林勉、林木定の二人にて家内の平穩を祈る爲め創立し基本財産として畑○甲一五〇〇を購入し其收益五、六圓を祭事費維持費に充て今日に至ると

土地公會

祭神 福德爺、同夫人

會員 十五人

創立 約百年前

例祭 舊曆二月二日

管理 西螺街頂浦三〇六 廖成

沿革及經理 約百年前同地の有志協議の上會員の安穩と農作の豐穰を祈る爲め創立し所屬財産として田○甲一三九〇(年收六圓)を有し祭事費維持費に充て今日に至ると

媽祖會

祭神 媽祖

會員 十五人(同地膠姓農業者のみ)

創立 約百十餘年前

例祭 舊曆三月廿三日

管理 西螺街頂浦三八七 廖日富

沿革及經理 庄内膠姓一同の無事息災を祈る爲め創立し田地○甲二五四五を購入して基本財産とし其收益を祭事費維持費に充て今日に至ると

福德爺會

祭神 土地公、同夫人

會員 五十五人

創立 約百十餘年前

例祭 舊曆三月十五日

管理 西螺街頂浦二四一 林九枝

沿革及經理 嘉慶二十三年頃同地の有志協議の上農作物の豐穰を祈る爲め本會を創立し所屬財産として養魚池○甲九三六五を購入、其年收十三圓餘を以て會の維持費祭事費に充て今日に至ると

福德爺公會

祭神 福德爺

會員 百二十八人(同庄居住者に限る)

創立 約百六十餘年前

例祭 舊曆二月二日、八月十五日

管理 西螺街社口七 廖全成

沿革及經理 庄民の享福を祈願する爲め庄民協議の上本會を創立したるも當初は所屬財産なく會員の寄附

に依り祭祀を行ひしが數年後會員中の有志出資して土地を買入れ基本財産として寄附せしかば爾來此の收益に依り祭事費維持費を支辨しつゝあり現財産畑三甲九七九九此小作料年三十七圓餘ありと

太平媽會

祭神 媽祖

會員 十人(同地程姓の者のみ)

創立 百三十年前

例祭 舊曆三月廿三日

管理 西螺街埔心二五八 程時番

沿革及經理 同地程姓の有志に依り創立され爾來所屬財産の收入に依りて祭典を行ひ會の維持を爲して居る現財産畑○甲二五三七(年收益八圓)ありと

關帝君會

祭神 關帝君

會員 九人(同地商人有志)

創立 約九十年前

例祭 舊曆五月五日

管理 西螺街埔心三〇七 程木春

沿革及經理 道光十七、八年頃同地程姓の祖先が協議の上本會を創立し基本財産を購入し其收益に依り會の維持及び祭典を行ひ今日に及んだものであると所屬財産畑○甲八五四六(年收益二十圓餘)ありと

聖母會

祭神 媽祖

會員 十五人(同地程姓の者のみ)

創立 約九十年前

例祭 舊曆三月廿三日

管理 西螺街埔心二四四 程文壽

沿革及經理 同地程姓の一族が同姓の平安を祈る爲め本會を創立したる者なるが當時の狀況不明なるも當初會員出資の上土地を購入し之を基本財産として其收益を以て維持及祭費に充つる事として今日に及べりと現財産畑○甲四七一(年收十二圓)ありと

三媽會

祭神 媽祖

會員 五人

創立 光緒十二年頃

例祭 舊曆三月廿三日

管理 西螺街埔心五七九 程明

沿革及經理 最初大義嶺の李姓の者のみにて組織し

居たるを道光十二年會の所屬財産と共に三十圓にて買入れ本會を創立せる者にして祭事費維持費共に所屬財産より支辨して今日に及びりと財産田〇甲四〇七〇年收益十三圓ありと

聖母會 西螺街吳厝四五

祭神 天上聖母、從祀千里眼、順風耳
會員 九百人

創立 約百年前

例祭 舊曆三月廿三日

管理人 西螺街吳厝四五 廖良墩

沿革及經理 農作物の豊作と庄民の平穩を祈願する爲め創立し最初は諸經費總て會員の寄附に待ちしが今より六十年前會員協議の上平等の贖金を爲し畑〇甲七五六〇(年收約三十圓)を買入れ之を基本財産とし爾來收益に依り祭事を行つて居ると

開臺聖王會 西螺街新庄子八九

祭神 國姓王

會員 六人

創立 不詳

例祭 舊曆十二月十五日

管理人 西螺街新庄子八九 廖番

沿革及經理 農作の豐穰を祈り會員の親睦を圖る爲め創立し會員各自應分の贖金を爲し之を以て基本財産を買入れ其收益を以て祭事を行ひ諸經費を支辨し今日に及びり其財産は田〇甲一〇六五(年收十圓)ありと

大帝爺會 西螺街新庄子八八

祭神 大帝爺

會員 五十人(同地廖姓にて組織)

創立 不詳

例祭 舊曆三月十五日、十月十五日

管理人 西螺街埔心三〇一 廖燿

沿革及經理 百餘年前廖姓の祖先が支那より移住の際本神を奉持し來り永く子孫の幸福を祈る爲め本會を創立し會員各自應分の贖金を爲し基本財産とし田一甲二〇五〇を購入し此の收益年五十二圓餘を祭事費維持費に充て今に及びたるものなりと

天上聖母會 虎尾庄廉使五一〇

祭神 媽祖

會員 千人

創立 嘉慶九年

例祭 舊曆三月廿三日

管理人 虎尾庄廉使五一〇 黃 閃

沿革及經理 同地は虎尾溪の流域に在り毎年降雨の際溪水汎溢し耕地を荒し作物の被害少なからざれば同地梁寛なる者庄民と謀り天上聖母を請じ此災厄を免かるゝ様祈願する爲め本會を創立し當時は其費用の全部を庄民一同より捐金し居りしが光緒四年捐金の過剰ありしを以て畑〇甲三八四〇を購入し其收益を以て會の維持費祭事費等を補助し居れりと

六房媽 虎尾庄過溪子

祭神 天上聖母、四將軍

會員 二百人(元同地林姓のもののみ)

創立 約二百年前

例祭 舊曆四月十二日

爐主 虎尾庄過溪子 林清江

管理人 同 周水勇

沿革及經理 林姓の祖先兄弟六人が各地にて本會を創立せる者にして創立の當時より會員の捐金にて維持し來りしか其後祭器の修繕費として會員より十二圓を徴收し之を希望者へ貸付け利殖を圖り來りしに今や其金額三百五十六圓餘に達し祭事費維持費共に基金中より支辨し居れりと

聖母會 二崙庄二崙子三二一

祭神 媽祖

會員 十七人

創立 約百年前

例祭 舊曆三月廿三日

沿革及經理 本會は元下茄塘の李、鐘、廖、呂四姓の者の創立に係り所屬財産畑三甲五〇五五を有し相當盛大なる祭事を行ひ來りたるが明治四十二年時の管理人呂聰普通共業地に變更し之を轉賣して會員に頒ち會は目下分裂解體の状態にて祭神のみは信仰者のみにて祭祀を行ひ居れりと

媽祖會 二崙庄大義崙三一〇

祭神 大義庄三媽廟の媽祖

會員 八人(同地李姓の者)

創立 同治七年

例祭 舊曆一月二十日

管理人 二崙庄大義崙三一〇 李應慶

沿革及經理 同地李姓の者が親睦を厚ふる爲め創立したる者にして所屬財産田六甲三九八八(年收八十二圓)を有し祭事費維持費其他一切を此收益より支辨し居れり

福徳會 二崙庄八角亭一七六

祭神 土地公

會員 六人(鐘姓の農業者のみ)

創立 光緒十二年

例祭 舊曆一月十五日

管理 二崙庄八角亭一七六 鐘木新

沿革及經理 豐作を祈り會員の親睦を固る爲め創立し會員各二十圓宛を出願して基本財産として蓄積し數年後畑二甲二三二〇(此收益年二十圓)を購入して其收益を維持費祭典費に充つる事として今日に及べり

伏魔公會 二崙庄八角亭一四五

祭神 伏魔公

會員 十一人(同地鐘姓の農業者)

創立 約百年前

例祭 舊曆五月五日

管理 二崙庄一一〇 鐘林發

沿革及經理 約百年前子孫の繁榮と幸福を祈る爲め創立したりと云ふも詳細不明にして祭事費維持費は會の所屬財産(畑一甲三六六四、田〇甲五九一六、年收二十圓)の收益より支辨して今日に至ると

天神爺會 二崙庄油車八五

祭神 大義崙庄媽祖廟の媽祖

會員 二十三人(同地李姓農業者)

創立 約百年前

例祭 舊曆一月二十日

管理 二崙庄油車八五 李謀番

沿革及經理 李姓一族の子孫の繁榮と幸福を祈る爲め組織せりと云ふも詳細不明なり會には所屬財産として田〇甲五九一〇(年收四十圓)を有し此中より祭事費維持費を支辨して今日に及ぶと

關帝君會 二崙庄大庄一六一

祭神 關帝君

會員 六十九人

創立 約百年前

例祭 舊曆一月十三日

管理 二崙庄大庄一六一 鐘萬金

沿革及經理 約百年前部落の有志が安全と幸福を祈る目的にて創立し子孫之を繼承し來れるものにして所屬財産の收益に依り會を維持し來れり現所屬財産畑一甲二二〇〇年收益十圓ありと

天公會 二崙庄田尾二四一

祭神 玉皇上帝

會員 七人(同地廖姓の農業者)

創立 約三十年前

例祭 舊曆一月九日

管理 二崙庄田尾二四一 廖旺

沿革及經理 創立沿革詳かならざるも同地廖姓の祖先が會員の平穩息災を祈る爲め創立したる者にして所屬財産として畑〇甲九四三〇(年收十七圓)を有し祭事費維持費に充て居ると

祖公會 二崙庄田尾二二三

祭神 廖昌盛

會員 七人(同地廖姓の農業者)

創立 約六十年前

例祭 舊曆三月三日

管理 二崙庄田尾二二三 廖名英

沿革及經理 祖公廖昌盛は二百餘年前移住し男子七人を設け夫々分家して業を勵み子孫漸次繁榮せり會員は此の七人兄弟の直系に屬する者にして今より六十年前本會を創立し所屬財産を作り此の收益にて祭事費維持費を支辨し來りたるか十數年前其大部分を處分して會員に分ち現在に於ては畑一甲一二三五、田〇甲九九〇五此收益六十七圓餘の財産を有し之を以て祭典及維持を行つて居ると

三山國王會 二崙庄永定厝三四二

祭神 三山國王

會員 十人

創立 約百年前

例祭 舊曆二月廿五日

管理 二崙庄永定厝三四二 楊標

沿革及經理 同地有志の創立に係り所屬財産たる土地の收益に依り會を維持し來れりと云ふの外詳細不明、所屬財産畑〇甲四三八五年收六圓

福徳爺公會 二崙庄永定厝四三九

祭神 福徳爺

會員 百十二人

創立 光緒五、六年頃

例祭 舊曆三月廿五日、八月十五日

管理 二崙庄永定厝四三九 廖大和

沿革及經理 部落内の住民相謀りて本祭神を祀り部落の幸福を祈らん爲め創立し庄内の原野約一甲歩を田地に開墾し此收益に依り祭事を行ひ會を維持し來りたるが明治三十七年以來財産收入を保甲費に寄附し目下

は會員各自維持費祭事費を負擔し居れりと

三 媽 會

二崙庄永定厝一二五

祭 神 三 媽

會 員 十二人(同地の李姓のみにて組織)

創 立 不 詳

例 祭 舊曆十二月廿六日

管理 人 二崙庄永定厝一二五 李慶東

沿革及經理 同地李姓一族の創立に係るも其詳細不明なり會に所屬財産畑一甲六七五〇、田一甲二〇八〇(年收四十四圓)有り祭典費維持費に充てゝ居ると

三 界 公 會

二崙庄永定厝一二六

祭 神 三界公、媽祖

會 員 八人(李姓の農業者)

創 立 約四十年前

例 祭 舊曆一月十五日

管理 人 二崙庄永定厝一二六 李新才

沿革及經理 四十年前同地李姓の有志相謀りて庄内の安全と會員の幸福を祈るべく基本金百圓内外を集めて本會を創立し田地を購入し其收益にて祭事を營む事とし今日に及びたり現所屬財産田一甲八三二五(年收四十圓)あり

聖 母 會

二崙庄港後一四

祭 神 媽 祖

會 員 十三人(荷苞嶼の李姓のみにて組織)

創 立 不 詳

例 祭 舊曆一月十一日、三月廿三日、十月不定日

管理 人 二崙庄港後一四 李心察

沿革及經理 媽祖を祭り會員の安寧幸福を祈る爲め約九百圓の畑地を會員各自持分を定めて出資買取し其收益を祭事費維持費に充つる事として今日に及びり所屬財産畑五甲〇五一五(年收益四十圓)ありと

郎 君 會

崙背庄麥寮

祭 神 郎君爺

會 員 十六人(同地の讀書人)

創 立 明治三十四年

例 祭 舊曆八月十二日

爐 主 崙背庄麥寮一三八 劉玉通

沿革及經理 本祭神は音楽の師祖にして文人讀書人音楽同好者の敬慕する處乃ち同地の讀書人各一圓宛を醸出し之を基本金として本會を創立し其二十圓に達す

る迄は別に祭事費等を會員にて負擔し其後は此二十圓の利息を以て祭事費に充つる事として本會を創立し今日に及びりと

許 眞 人 會

崙背庄麥寮

祭 神 許眞人

會 員 十人(同地許姓の者)

創 立 明治四十三年

例 祭 舊曆十一月十八日

爐 主 崙背庄麥寮一九一 許瑞來

沿革及經理 許姓の祖先許眞人を祀る爲め創立せる者にして當時會員一人七十錢宛を醸出し之を基本金として一面之れが利殖を圖ると共に他面祭事費の補給を爲し漸次剩餘を蓄積し現在十三圓餘の積立金ありと

武 王 爺 會

崙背庄麥寮二五七

祭 神 武王爺

會 員 十八人

創 立 明治四十二年

例 祭 舊曆十月廿一日

管理 人 崙背庄麥寮一三九 林 讀

沿革及經理 本會は同地にて父母會を組織するに當り當會の祭神たる武王爺に誓はせる爲め創立したる者にして會員は最初一人六十錢宛を醸出して基本金として利殖を圖り現在に於ては基本金二十五圓に達し此年利息約五圓あるも之は依然積立金とし祭事費維持費は別に會員に於て負擔し居れりと

李 王 爺 會

崙背庄麥寮二五七

祭 神 李王爺

會 員 十六人

創 立 明治三十五年

例 祭 舊曆四月廿六日

管理 人 崙背庄麥寮三〇九 吳 記

沿革及經理 會員の享福と平安を祈る爲め創立し會員各一圓五十錢宛を醸出し之を基本財産として他に貸付け其利息を以て祭事費維持費を補足し今日に及びり現基金二十四圓年利息四圓八十錢ありと

刑 王 爺 會

崙背庄麥寮一四五

祭 神 刑王爺

會 員 十六人

創 立 明治三十九年

例 祭 舊曆八月廿三日

爐 主 崙背庄麥寮一四五 林 炮

沿革及經理 當地鎮北宮に併祀せる刑王爺に其祭典日に當りても祭祀を爲すものなきより本會を創立して其誕生日に祭祀を行ふ事とせる者にして會は創立の當初會員各一圓五十錢宛を出金し之を基本財産として其利息を以て祭事を行ひ維持費に充つる事として居る現在基金二十四圓利息年四圓八十錢ありと

媽祖會 嵩背庄橋頭五八

祭神 媽祖
 會員 九人
 創立 光緒八、九年頃
 例祭 舊曆三月廿三日
 管理人 嵩背庄橋頭一五八許池炮、同五八許
 烟鑄

沿革及經理 光緒八九年頃當庄に大暴風雨あり庄民多く他庄へ避難し容易に復歸せざるより同庄の許塗殘孝庄民に謀りて本會を組織し會員各十八圓宛を醸金して基本財産を購入し其收益を以て會の維持に充つる事とし今日に至れりと財産烟三甲三九二五年收益二十一圓あり

灶君會 海口庄崙子頂五一六

祭神 灶君
 會員 十八人
 創立 不詳
 例祭 舊曆八月三日
 爐主 海口庄崙子頂五一六 李竹頭
 沿革及經理 灶君を祀れば火災豫防に靈顯ありとて從前同名の會ありしも一時廢絶せるを大正元年李竹頭發起して再興せり維持費祭典費は會員各自負擔となり居れり

土地公會 海口庄十張犁二五五

祭神 土地公
 會員 六人
 創立 道光五十年頃
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 海口庄十張犁二五五 丁 福
 沿革及經理 八九十年前十張犁の南方原野に土地公の木俵洪水の爲漂着したるを持ち來り本會を創立して祭祀を行ふ事としたるものにして當時土地公漂着の原野を開墾し其收益を以て會の維持に充つる事とせり現財産烟一甲三二九〇其收益一圓五十錢ありと

北港郡宗教團體

北港街
淨土宗教會所 北港街北港二二一九

本尊 阿彌陀如來
 宗派 淨土宗報恩寺
 創設 大正五年六月
 信徒數 一千人
 例祭 春秋彼岸會法要(三月、九月)、盂蘭盆法要(七月)、十夜法要(十月)、御忌法要(一月)

沿革及經理 大正五年同地初代の布教師橋口全龍師の努力と當時支那長等の盡力に依り北港俱樂部所有土地の寄附を受け一千信徒の喜捨三千圓と淨土宗教所より二千圓の補助を受け本郡唯一の他力念佛道場を創立し三代宮本節信本堂の裏一部を改修し五代の當三好布教師に至り郡當局と信徒總代の盡力を得て庫裡及周圍の煉瓦塀を構築し經費は信徒の喜捨に依る財産仕貸家數棟坪數八百五十坪月四十圓の收入あり

陳聖王會 北港街北港九一三

祭神 陳聖王、從祀輔義將軍、輔信將軍
 會員 百二十人
 創立 乾隆三十年(葉國曆)
 例祭 舊曆二月十五日
 爐主 北港街北港九一三 陳玉榮
 沿革及經理 陳聖王は陳姓の祖先にして中華民國の漳州を開拓せるもの乃ち北港の陳姓相謀つて本會を組織し毎年祭典を行ふ其費用は會員富に依り等差を附して割當て釀出す總額三十圓内外にして財産なし

藥郊金合興 北港街北港五一九

祭神 神農大帝
 會員 十四名
 創立 同治元年
 例祭 舊曆一月十五日、五月十五日
 爐主 北港街北港五一九 陳 芝
 沿革及經理 神農聖帝は植物採集の爲め廣く山谷を跋渉し草根木皮を集め苦臭を嘗めて藥種を得たる人にして後世藥種發見の祖として之を奉祀す北港街の藥種商等も亦於此類に倣ひ本會を組織して毎年之を奉祀す會費は各自釀出すと

淨土宗教會所 北港街北港二二一九
 本尊 阿彌陀如來
 宗派 淨土宗報恩寺
 創設 大正五年六月
 信徒數 一千人
 例祭 春秋彼岸會法要(三月、九月)、盂蘭盆法要(七月)、十夜法要(十月)、御忌法要(一月)
 沿革及經理 大正五年同地初代の布教師橋口全龍師の努力と當時支那長等の盡力に依り北港俱樂部所有土地の寄附を受け一千信徒の喜捨三千圓と淨土宗教所より二千圓の補助を受け本郡唯一の他力念佛道場を創立し三代宮本節信本堂の裏一部を改修し五代の當三好布教師に至り郡當局と信徒總代の盡力を得て庫裡及周圍の煉瓦塀を構築し經費は信徒の喜捨に依る財産仕貸家數棟坪數八百五十坪月四十圓の收入あり
 陳聖王會 北港街北港九一三
 祭神 陳聖王、從祀輔義將軍、輔信將軍
 會員 百二十人
 創立 乾隆三十年(葉國曆)
 例祭 舊曆二月十五日
 爐主 北港街北港九一三 陳玉榮
 沿革及經理 陳聖王は陳姓の祖先にして中華民國の漳州を開拓せるもの乃ち北港の陳姓相謀つて本會を組織し毎年祭典を行ふ其費用は會員富に依り等差を附して割當て釀出す總額三十圓内外にして財産なし
 藥郊金合興 北港街北港五一九
 祭神 神農大帝
 會員 十四名
 創立 同治元年
 例祭 舊曆一月十五日、五月十五日
 爐主 北港街北港五一九 陳 芝
 沿革及經理 神農聖帝は植物採集の爲め廣く山谷を跋渉し草根木皮を集め苦臭を嘗めて藥種を得たる人にして後世藥種發見の祖として之を奉祀す北港街の藥種商等も亦於此類に倣ひ本會を組織して毎年之を奉祀す會費は各自釀出すと